



第17回 ありみね高校生学びの森

- 2021年6月20日（日） -

ニュースレター No.1



挙手し次回参加をアピールする生徒



冷夕谷に自生するギンリョウソウ

【概要】

令和3年6月20日(日)、第17回「ありみね高校生学びの森」第1回目(春季)を開催しました。第1回目の参加者は、県内の高等学校11校より講師14名と県内の高等学校6校より生徒14名、合計28名でした。コロナ禍、参加に当たり、検温やマスク着用を徹底、36名乗りのバス乗車定員を最大15名/台とするなど参加者の健康管理・安全に配慮しながら実施しました。8時30分富山駅北口を出発、午前10時より有峰ハウス別館外の広場ではじまりの会を実施、有峰森林文化村次長中川の挨拶の後、主任指導員霜鳥より、講師及び参加生徒の紹介をし、講師リーダー福田先生より就任の挨拶を戴きました。霜鳥より、本日の活動内容の概要を説明後、講師リーダー福田先生より第17回「ありみね高校生学びの森」の抱負を戴き、野帳の使い方の指導を受けた後、2班に分かれて、野外活動を開始しました。



はじまりの会で挨拶する
有峰森林文化村次長中川



参加者の高校生

【哺乳類調査】10:10~10:40

哺乳類調査は、講師リーダー福田先生の指導の下実施しました。福田講師から、例年どおり前日にシャーマントラップ(ネズミ捕獲用罠)を20個設置し、本日7時回収、7匹(アカネズミ6匹、ヒメネズミ1匹)捕獲したとの説明を受けました。次に、各ネズミの特徴(ヒメネズミは身体のわりに尻尾が長く、反対にアカネズミは、尻尾が短い等)を解説戴き、全員で残しておいたシャーマントラップの見学・観察を行いました。参加者は、先生の講義内容を野帳に記載したり、捕獲したネズミをスマホやデジカメで撮影していました。



ネズミのの特徴を説明中の講師福田先生



ネズミの説明を受講中の生徒

両生類の調査と植物の植生調査は、1班・2班の2グループに分け、40分のサイクルで入れ替わり調査活動を実施しました。

【両生類調査】10:40～11:55

両生類調査は、講師堺先生指導の下、有峰ハウス別館裏のため池で実施しました。堺先生から調査開始前に、ため池の成り立ちや、有峰の植生の概要説明を受けた後、天候、気温、水温、pHのデータを野帳に記録するように指導を受けました。天候は、晴れ、気温18℃、水温9.9℃、pH6.3(弱酸性)で、水質は両生類の生存に問題ない条件でした。このため池に生息するヒダサンショウウオ、クロサンショウウオやハクバサンショウウオの生態の説明を受けました。ため池の調査では、モリアオガエルの卵塊3個とクロサンショウウオの卵塊の発見、観察を行いました。アカハライモリ(捕食者)とモリアオガエルのオタマジャクシ(非捕食者)との食物連鎖に関する堺講師の話に、参加した高校生は傾注、熱心に野帳にメモしていました。体験学習の大切さ・重要性を再認識しました。



両生類の生態説明中の堺講師



モリアオガエルの卵塊観察中の参加者

【植物調査】10:40～11:55

植物調査は、氷見先生指導の下、有峰ハウス別館裏の永遠の木(ブナとミズナラが絡み合って生育している木)付近の森林で実施しました。植生調査は、方形区毎木調査にて実施しました。巻尺を用いて林内に9m×9mの方形区を設置後、最初に、斜面方向と斜度を記録し、毎木調査を開始した。2m以上の樹木を対象とし、種名、位置(X軸、Y軸)、胸高周囲、樹高及び樹冠を計測しました。位置と胸高周囲は巻尺による測定、樹高と樹冠は目測で求めました。※各計測値をExcelで解析予定。基底面積と樹冠面積が最も大きい種を優占種と定めます。さらに、ブナの実生苗やギンリョウソウの観察、樹木の解説や樹種の周囲(cm)に基づく樹齢の推定についても解説戴きました。



氷見講師より毎木調査の説明



氷見講師と下胸高周囲測定中の生徒

【昼食】(冷タ谷キャンプ場)12:20～13:00

昼食時に、講師リーダー福田先生を中心に、参加講師に集合戴き、夏季研修のスケジュール内容について相談しました。

夏季研修は、コロナ禍の情勢を踏まえ、8月2日(月)と8月3日(火)の2日間とも日帰り研修として実施すること、一日目の8月2日(月)は有峰での観察会、8月3日(火)は富山県農林水産公社でまとめ及び発表を行うことで内諾戴きました。



冷タ谷キャンプ場・ロッジ内で
記録を取る参加者



冷タ谷キャンプ場ロッジ前で
集合中の参加者

【冷タ谷遊歩道での森林生態系の解説・観察】13:10～14:20

冷タ谷遊歩道での森林生態系の解説・観察は、氷見先生指導の下、冷タ谷樹木マップ等も活用し実施しました。冷タ谷遊歩道には、ブナ、ミズナラ、トチノキ、カエデ類、ギンリョウソウ、オオカメノキ、ヤマウルシ、ミズバショウなどの植物が分布しています。氷見先生には、歩きながら冷タ谷に分布する樹種の説明、森林生態系について分かりやすく解説戴きました。



冷タ谷遊歩道北口で冷タ谷の森林
生態系について説明中の氷見講師



冷タ谷遊歩道散策中の参加者

【大多和峠への分岐の水路で水生動物調査】14:25～14:40

大多和峠への分岐の水路での水生動物調査は、堺先生指導の下、実施しました。今年は、この水路でヒダサンショウウオを発見・観察することができませんでしたが、カゲロウやカワゲラなどの水生昆虫を観察することができました。



ここに生息する水生動物の説明する堺講師



堺講師の説明を受講中の生徒

【冷夕谷キャンプ場ロッジにて振り返りの会実施と次回(夏季研修)の連絡】14:50～15:40

冷夕谷キャンプ場ロッジにて振り返りの会を実施しました。まず、参加した生徒には感想文とアンケートを記入戴き、講師の先生方にはアンケートを記入戴きました。その後、振り返りの会を開催、有峰森林文化村次長中川の挨拶に続き、講師リーダー福田先生に挨拶を戴きました。霜鳥より、次回(夏季研修)の連絡を行いました。その後ロッジ前にて全員で記念撮影を行い、バスにてビジターセンターに移動し、第1回目の「学びの森」を終了しました。



感想文・アンケート記載中の参加者



振り返りの会で挨拶中の
有峰森林文化村次長中川

活動MAP

令和3年6月20日(日)

